

明治維新と静岡 徳川慶喜、家達と旧幕臣たち

徳川家による江戸幕府の統治体制が崩れ、明治維新という改革が起こりました。最後の将軍であった徳川慶喜は謹慎し、分家である御三卿のうち田安家の家達が徳川家を継いだことで、徳川宗家は駿河府中(駿府、のちの静岡)へ移されます。それに伴って、多くの幕臣が徳川家に従って静岡へ移住してきました。彼ら旧幕臣たちはどのような境遇で静岡へ移住してきたのか、静岡での生活ぶりはどうだったのか。静岡藩の成立、徳川慶喜・家達の動向とともに、静岡における徳川家と旧幕臣たちにとっての明治維新をひもときます。

人物紹介

徳川慶喜 とくがわよしのぶ (1837~1913)

江戸幕府最後の第15代将軍。水戸藩主徳川斉昭の七男として、江戸の水戸藩邸で生まれる。慶応2(1866)年、征夷大將軍となる。翌年、政権を朝廷に返上したが、鳥羽・伏見の戦いに敗れて謹慎した。その後謹慎は解かれたが、およそ30年間にわたって静岡で暮らした。

徳川家達 とくがわいえさと (1863~1940)

幼名亀之助。田安家より徳川家にはいり、慶応4(1868)年、慶喜のあと宗家を継いで、家達と改名。駿河・遠江・三河の領地を与えられ、翌年の版籍奉還で静岡藩知事となる。のちに、貴族院議長、日本赤十字社社長などを歴任し、ワシントン会議全権委員をつとめた。

渋沢栄一 しぶさわえいいち (1840~1931)

武蔵国樺沢郡血洗島村(現:埼玉県深谷市)生まれ。一橋家の家臣となり、フランスをはじめヨーロッパ諸国を歴訪して、近代的技術・経済制度を見聞した。幕府が倒れたため帰国し、一時静岡藩に仕える。その後新政府で大蔵省に入るが、井上馨とともに健全財政を主張して聞き入れられず、辞任した。

勝海舟 かつかいしゅう (1823~1899)

名は義邦、通称を麟太郎、海舟は号。江戸本所に生まれる。西洋兵術や蘭学を学んで、幕府内でも知識・技術ともに第一人者となる。徳川家の駿府移転に従って移住したが、新政府からしばしば呼び出されている。徳川家の後見人として当家家達や隠居の慶喜、旧幕臣たちの面倒をみた。

中村正直 なかむらまさなお (1832~1891)

明治時代前期の教育者、歌字と号す。江戸麻布生まれ。幕府の英国留学生派遣に同行し、市民社会の実状にふれる。幕府の崩壊で帰国して静岡に移り、静岡学問所の教授となる。イギリス人のサミュエル・スマイルズ著「Self Help」を翻訳し、「西国立志編」として刊行した。

山岡鉄舟 やまおかてっしゅう (1836~1888)

通称は鉄太郎。江戸本所に生まれる。槍術の師である山岡家を継いだ。慶応4(1868)年、駿府で西郷隆盛と会見し、江戸無血開城に尽くした。同年徳川家に従って静岡に移住し、翌年には静岡藩権大参事となった。廃藩後は新政府に仕え、明治天皇の側近となった。

関口隆吉 せきぐちたかよし (1836~1889)

江戸本所に幕臣の子として生まれる。明治17(1884)年に静岡県令、明治19(1886)年に初代静岡県知事となる。治水・治山事業などに尽力し、図書館の設立を構想したが、列車事故で負傷し、それがもて亡くなった。墓は臨濟寺にあり、蔵書は静岡県立中央図書館に「久能文庫」として所蔵されている。

画像はすべて国立国会図書館近代日本人の肖像

はじめに 明治維新と徳川家

慶応3(1867)年10月、15代将軍・徳川慶喜は政権を朝廷に返上。翌年正月の鳥羽・伏見の戦いに敗れて謹慎します。新政府によって徳川家は駿河府中(駿府、後の静岡)へ移されることになります。徳川家を継いだのは、数えでわずか6歳だった亀之助(家達)でした。



慶喜追討令木札 当館所蔵

第1章 旧幕臣と駿府・静岡

駿河府中(駿府、後の静岡)へ移された徳川家に与えられたのは、駿河、遠江、三河の一部の70万石でした。徳川家を継いだ家達に従って、多くの旧幕臣たちが江戸から駿府へ移住してきました。その中には勝海舟などの有名な人物も含まれています。彼らは横浜から蒸気船に乗って清水へ上陸し、駿府を目指しました。旧幕臣の多くは無禄移住、つまり将来の生活の保障がない状態のまま移住してきました。



勝海舟所用ピストル 当館所蔵(白鳥家資料)

第2章 静岡藩と旧幕臣たち

徳川家達を藩主として、駿河府中藩(後の静岡藩)が成立します。静岡藩は旧幕府の優秀な人材を引き継いで、さまざまな事業を展開し、最先端の教育を行いました。旧幕臣の中には、重臣となった勝海舟や山岡鉄舟、商法会所を設立した渋沢栄一や、静岡学問所で教鞭をとった中村正直などがいました。一方、無禄移住してきた旧幕臣の多くは、町方や農村、寺社に家を借りて住むなど、その生活は困難を極めました。



勝海舟写真 当館所蔵(白鳥家資料)

第3章 旧幕臣と慶喜・家達

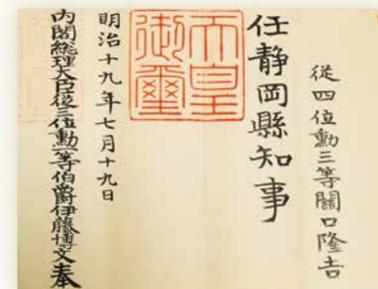
謹慎の身であった徳川慶喜は、謹慎がとけた後も長く静岡で暮らし、写真や絵画、書などの趣味に生きました。一方、家達は明治4(1871)年の廃藩置県で静岡藩がなくなり、東京へ戻って政治家となった後も、静岡との関わりを持ちました。慶喜、家達が残した写真や書画が静岡に伝わっています。各地で定住をはじめた旧幕臣たちは徳川家を慕い続けました。



徳川家達家族写真 当館所蔵

第4章 静岡県の成立と旧幕臣たち

明治4(1871)年、廃藩置県によって静岡藩は廃止され、静岡県が成立します。静岡県は人材の多くを静岡藩から引き継ぎました。明治17(1884)年には旧幕臣である関口隆吉が県令に就任し、明治19(1886)年には初代県知事となります。静岡県は旧幕臣たちに支えられていたのです。関口の構想を基礎として大正14(1925)年に設立された葵文庫は、徳川家の記念事業として渋沢栄一らの寄附により建設され、旧幕府の蔵書を引き継ぎました。



任静岡縣知事(関口隆吉) 静岡県立中央図書館所蔵

おわりに その後の静岡と徳川家

徳川家達は明治21(1888)年、静岡を訪問して旧幕臣たちと交流を深めています。その後も教育の支援など、さまざまな形で徳川家と静岡との関わりは続きました。



昔夢会筆記 静岡市立清水中央図書館所蔵

関連イベント

企画展関連講演会

「静岡学問所とその群像」

令和7年5月17日(土) 13:30~15:15(開場12:30)

静岡藩が設置した静岡学問所は、旧幕府の人材と知識を引き継ぎ、最先端の教育を行いました。静岡藩を専門とする研究者が静岡学問所とそこに集った人材たちの活躍について解説します。

- 対象 どなたでも 200人
- 会場 葵生涯学習センター(アイセル21)1階ホール(静岡市葵区東草深町)
- 講師 樋口雄彦さん(国立歴史民俗博物館教授)
- 申込 4月12日(土)10:00~ 静岡市歴史博物館ホームページ申込フォームで先行受付
4月18日(金)10:00~ 静岡市歴史博物館(054-204-1005)で電話受付(申込順)

参加無料



静岡学問所
クラーク著「Life and Adventure in Japan」(当館所蔵)

学芸員ガイドツアー

「明治の静岡をめぐるツアー」

令和7年5月25日(日) ①10:30~12:00 ②14:00~15:30

明治維新後、多くの幕臣が徳川家に従って静岡へ移住してきました。今回のツアーでは、企画展で取り上げられている徳川慶喜、家達、そして静岡藩に関する歴史スポットをめぐる予定です。

- 対象 どなたでも 各30人(小学生以下保護者同伴)
- 集合 静岡市歴史博物館1階 戦国時代末期の道と石垣の遺構周辺エリア(※現地解散)
- 申込 4月27日(日)10:00~ 静岡市歴史博物館(054-204-1005)で電話受付(申込順)

参加無料



企画展関連トーク

会場:1階市民活動スペース 13:30~14:30

申込不要

参加無料

「徳川慶喜と静岡」

令和7年4月26日(土) 最後の将軍となった徳川慶喜。慶喜は隠棲の地に静岡を選びました。その理由に迫ります。

「静岡藩誕生と地域リーダーたち」

令和7年5月3日(土) 静岡藩の主要人物と地元の有力者たちとのかかわりについて解説します。

「明治維新における静岡藩誕生と旧幕臣の駿河移住」

令和7年5月18日(日) 明治維新に伴って成立した静岡藩。徳川家に従って移住してきた旧幕臣たちを静岡の人びとはどのように受け入れたのでしょうか。

「静岡で暮らした徳川当主、家達」

令和7年6月1日(日) 静岡で生活したことがある徳川家当主は、家康、慶喜、そして家達の3人。静岡藩主を務めたのち、家達はどのような人生を歩んだのか。教科書の続きの徳川家をおはなしします。

「手紙で読み解く、勝海舟と静岡」

令和7年6月7日(土) 明治新政府に江戸城を明け渡し、静岡に移り住んだ幕臣、勝海舟。海舟が関わった名主の家から、彼に関わる手紙がたくさん発見されました。知られざる海舟の姿に迫ります。



徳川慶喜画 油彩画(当館所蔵)